

平成22年度事業計画

財団法人 滋賀県陶芸の森

1 基本方針

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして重要な産業である信楽焼をベースに、陶芸の世界的拠点となることを目指し、自然の中で創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、また、陶芸館や創作研修館、産業展示館の三つの施設の運営を通じて県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、広く陶芸に関する交流の場として積極的な事業の展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

また、開設20周年を迎える平成22年度は、10月、11月に開催される「信楽まちなか芸術祭」（信楽陶芸トリエンナーレ）を訪れる多くのやきものファンをターゲットに、現代の信楽焼の魅力をアピールする特別展を開催するなど、様々な記念事業を実施し、信楽焼陶器産業の活性化と観光振興を図る。

2 事業計画

(1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園や施設を安全かつ清潔に保ち、芝と植栽の管理に努め、入園者に快適な空間とサービスを提供する。

また、本県の観光拠点として陶芸の森を広くアピールし、多くの観光客の集客に努める。

ア 公園の魅力の向上

(ア) 陶芸作品の野外設置

陶芸作品を野外設置して、公園利用者に気軽に陶芸作品に触れる機会を提供する。

(イ) 緑化の推進

「滋賀県緊急雇用創出特別推進事業」として、4名の職員を雇用し、外国人を含め、多くの観光客が楽しめるよう季節の花々の植栽を行う「県立陶芸の森国際観光地緑化推進事業」を実施する。

イ 地域の観光拠点としての集客促進事業

(ア) しがらき学ノススメ

やきものファンを対象に、やきものについて広く学んでもらえるよう体験講座を開催する。また、地元の陶芸家を講師に招き、伝統的な登り窯で焼成を行う講座を新たに開催する。

(イ) イベントの開催

やきものをテーマにしたマーケット等を開催し、県内各地で活躍する陶芸家の個性豊かな陶芸作品を広く県内外の人々に紹介するとともに、陶芸に関する交流の場を提供する。

(2) 陶器産業の振興に関する事業

滋賀県経済振興特別区域に認定された「国際陶芸産業都市特区」の対象地域であることを背景に地域産業、地域文化として信楽焼陶器産業との連携を強化し、信楽焼の伝統技術や国内外の多様な陶磁器制作技法を紹介する。また、地元企業と共同して信楽焼の新商品開発などに取り組む。

ア 信楽焼新商品開発の促進

海外からデザイナーを招き、平成19年度に地元企業と陶芸の森が共同で設立したデザイン研究会において新しいデザインの信楽焼の商品開発に取り組む。また、「滋賀県緊急雇用創出特別推進事業」として職員を1名雇用し、新商品の試作品の制作を行う。

イ やきもの技術相談員制度の創設（新規）

信楽に培われたやきものの技術を次代を担う若手作家に継承するため、「やきもの技術相談員制度」を創設する。

ウ 「アーティスト・イン・レジデンス資料室」（仮称）の整備・公開（新規）

これまでのアーティスト・イン・レジデンス事業で蓄積された技術やデザインに関する多数の資料を有効に活用し、信楽焼陶器産業の振興に役立てるため、資料閲覧室を新たに整備し、公開する。

エ 信楽産業展示館の管理運営事業

信楽焼産業の振興と市民の文化向上に資するよう滋賀県立陶芸の森の設置目的と調和させながら信楽産業展示館の運営および施設利用の活性化に努める。また、「信楽まちなか芸術祭」において、デザイン製品の展示を行う。

(3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

ア 展覧会開催事業

(ア) 「ハンス・コパー展—20世紀陶芸の革新」

平成22年4月1日(木)～6月17日(木) (平成21年度からの継続事業)

ハンス・コパーは、“うつわ”から立体造形へと領域を広げ、陶芸の美的価値に新たな局面を開いた作家で、イギリスの現代陶芸の基礎を築き、20世紀の陶芸に大きな足跡を残した。このハンス・コパーの日本で初めての大規模な回顧展を開催する。

(イ) 「わくわくミュージアム—ちょっと不思議で、楽しい“やきもの”」(開設20周年記念事業)

平成22年6月26日(土)～9月10日(金)

第二次世界大戦後、現代美術の動向と連動して「やきもの」にもつくり手の個性や美意識を反映したメッセージ性の強い作風が数多く見られるようになった。「これって使える?」、「なんだ、これ!」、見る人が驚きの声をあげるような不思議で楽しい「やきもの」の数々を一堂に紹介する。

(ウ) 「しがらきやき—直方の茶陶 春斎の壺」(開設20周年記念事業)

平成22年9月18日(土)～12月12日(日)

五代上田直方(1928～)と高橋春斎(1927～)の二人は、滋賀県指定無形文化財保持者に認定された信楽焼の巨匠であり、後進の陶芸家たちにも影響を与え続けている。信楽焼のファンが多数訪れる「信楽まちなか芸術祭」の開催に合わせ、現代の信楽焼を代表するこの二人の作家にスポットを当てることにより、信楽焼の魅力を見つめ直し、今後の信楽焼が目指す方向を模索する機会とする。

(エ) 「近江に花開いたやきもの—街道とともに…」

平成23年3月1日(火)～3月27日(日)

豊かな自然に恵まれた近江は、東西交通の要衝として、古代よりわが国を代表する主要な“みち”(街道)が集散し、特色ある文化が育まれてきた。信楽の「やきもの」は“みち”(街道)を通じて、京都や大阪など、近隣の消費地に流通し、日本を代表する陶器の産地に発展した。湖国の“みち”(街道)と「やきもの」を題材に、近江に花開いた「やきもの」の数々を紹介する。

(オ) 陶芸館ギャラリー展

陶芸館のギャラリースペースを活用し、「シリーズ湖国の陶芸家」と題した県内の若手作家を紹介する展覧会や、アーティスト・イン・レジデンス事業でゲスト・アーティスト等が制作した作品の展覧会を開催する。

(カ) 陶磁ネットワーク会議の開催

平成22年5月19日(水)・20日(金)

「陶磁ネットワーク会議」は、陶芸の森を含め、全国7館の陶磁器専門美術館・博物館が参画して、交流や連携を目的として平成20年度に設立した会議。平成22年度は陶芸の森が幹事館となり、共同事業の企画立案や各館の収蔵品の活用などについて検討を行う。

イ 創作事業

(ア) アーティスト・イン・レジデンス事業

独立行政法人国際交流基金主催の「東アジアクリエイター招聘プログラム(21世紀東アジア青少年大交流計画)」、アメリカの全米陶芸教育者会議やフランスの美術工芸支援団体であるアトリエ・ダールなどと連携し、国内外から将来性のある若手作家をスタジオ・アーティストとして受け入れるとともに、世界各国および国内の著名な陶芸家をゲスト・アーティストとして招聘し、互いに芸術的刺激を受けながら創作活動ができる環境を提供する。また、滞在作家によるワークショップやレクチャーなどを積極的に開催することにより、地元の若手作家や信楽焼陶器業界との交流を促進する。さらに、著名な陶芸家により制作寄附される作品を陶芸の森のコレクションとする。

(イ) 開設20周年記念事業

前述の二つの展覧会のほか、信楽で活躍する陶芸家（信楽焼伝統工芸士、信楽陶芸作家協会会員等）による公開ワークショップや、シンポジウム「やきものが信楽を創造する」（仮称）を開催する。

ウ 子どもやきもの交流事業

世界にひとつの宝物づくり実行委員会と連携し、陶芸の森の特性を生かした、やきものに関する鑑賞教育や体験教育の場を提供し、将来にわたる陶芸ファンの獲得を目指す。

また、「滋賀県緊急雇用創出特別推進事業」として、4名の職員を雇用し、子どもの創作体験講座のほか、やきものファンを対象とした体験講座を充実するなど、陶芸の森の各種事業の魅力アップを行い、利用者の拡大を図る。

(4) 企画事業

展覧会図録や関連グッズ、オリジナルグッズ、陶芸関係書籍を販売する。インターネットの活用により商品の提供や販売の促進に努める。また、創作研修館に滞在するアーティストの作品販売により、作り手と使い手の橋渡し役を務める。